

令和2年4月2日

サイバーセキュリティ関連情報（4月号）

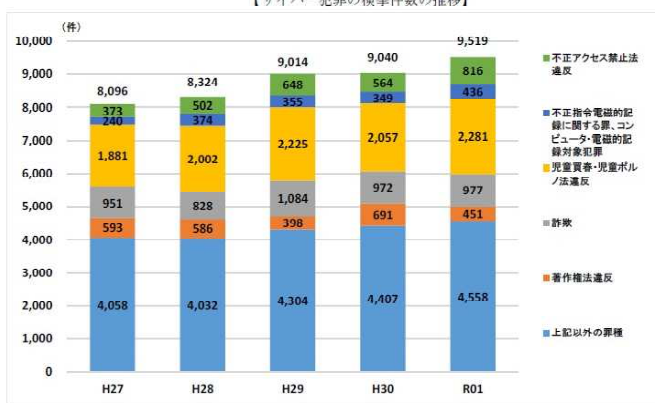
鳥取県警察本部サイバー犯罪対策課

○ 2019年のサイバー犯罪検挙数は過去最多9519件

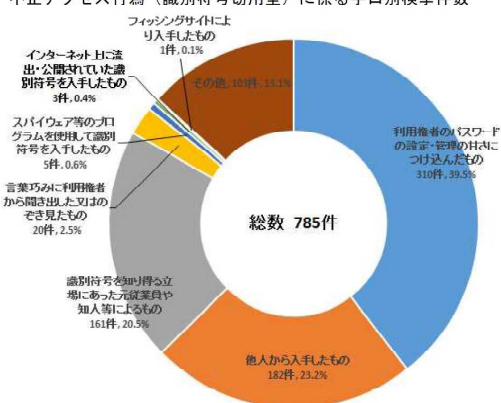
警察庁が公表した広報資料（令和元年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について）によると、2019年のサイバー犯罪検挙数は9519件で過去最多となり、このうち不正アクセス禁止法違反による検挙数は816件、なかでも他人のパスワードを不正利用する「識別符号窃用型」が785件で最も多いことがわかりました。

識別符号型での手口の内訳は、「利用権者のパスワードの設定・管理の甘さにつけ込んだもの」が39.5%（310件）、「他人から入手したもの」が23.2%、「識別符号を知り得る立場にあった元従業員や知人などによるもの」が20.5%（161件）となっています。

【サイバー犯罪の検挙件数の推移】



不正アクセス行為（識別符号窃用型）に係る手口別検挙件数



他人からの不正ログイン防止のためにも、パスワードは、できるだけ長く複雑なものにし、複数のサービスで使い回さないようにしましょう。

また、ワンタイムパスワードや生体認証等の「多要素認証」を利用しましょう。

引用 警察庁 http://www.npa.go.jp/publications/statistics/cybersecurity/data/R01_cyber_jousei.pdf



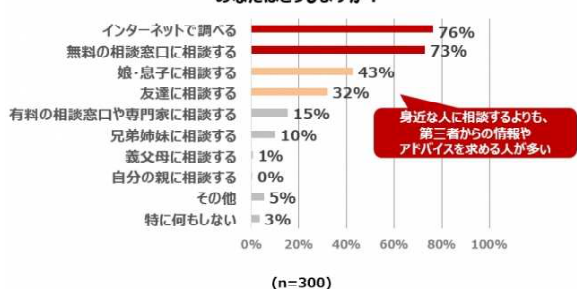
○ シニアのネットトラブル調査 「身近な人」よりも「第三者」を頼る傾向？

NTTドコモは、スマートフォンを所有する60歳から79歳までの男女300人を対象に今年2月10日から12日にかけて実施したネットトラブルに関する調査結果を公表しました。

「スマホを積極的に使用していますか」との質問に対し、78%が「そう思う」と回答したものの、近年手口が悪質化している「ネット詐欺」の調査では、「フィッシングメールを受け取ったことがある」と回答した人は25%、「利用した覚えのないサイトやサービスからの請求を受けたことがある」と回答した人は15%にのぼっています。

また、「インターネット上のトラブルに巻き込まれたときの行動」に関する調査では、「インターネットで調べる」が最多となる76%、「無料の相談窓口で相談する」が73%となる一方で、「娘、息子に相談する」は43%、「友達に相談する」は32%にとどまっています。トラブルが起こった際に娘や息子には相談しづらく、第三者からのアドバイスを受けたいと考えるシニアが多いと言えます。

インターネット上のトラブルに巻き込まれたときに、あなたはどうしますか？



シニア層はネット詐欺の標的になりやすい傾向にあり、中には老後の生活費をすべて騙し取られる被害にあう方もおられます。また、次々に新たな手口の犯罪が発生するため本人や家族だけでは防ぎきれないこともあります。

ネットトラブル等でお困りの際、まずは、早めに警察にご相談をお願いします。

☎ 警察総合相談電話 #9110